



本年度4月より新規にスタートした普通科生徒を対象に系統的・組織的なキャリア教育を実践し、高いモチベーションを維持しながら進路実現へと導く取組である「みらいプロジェクト」の一環として、2年生を対象に11月2日(月)に、京都府教育委員会支援の「キャリア教育サポーター派遣事業」第1回特別講演を、佛教大学教育学部より原清治先生をお招きして開催しました。



原先生には、4月当初にも1年生を対象に「夢を抱き、夢に向かって生きる」というテーマで御講演をいただき、大きな反響をいただきました。原先生は文部科学省を始め様々な分野で委員を務めておられ、複数の大学で教鞭をとられる傍ら、教育関連の書物も多数執筆しておられます。今回の御講演では最新の研究データなども紹介していただき、まさに日本の教育界の最前線の知識に触れさせていただくという貴重な機会を与えていただくことができました。



今回の御講演は「目標を持って充実した高校生活を送ることの意義」というテーマでお話しいただき、幅広い人間関係の構築がもたらすメリット、高校卒業後の具体的な目標設定の重要性、大学進学後及びその後の進路に目を向けた「今という時間」の過ごし方などについて具体例を交えて御教示いただきました。

先生から発せられた熱いメッセージは生徒の心に届き、生徒の多くは2年生の2学期における自らの現状とその問題点について気付き、各自が「今」と「今後」に対する明確なビジョンを持つことができました。

また、御講演の冒頭では推薦入試における面接のポイントについても解説していただき、受ける側の視点ではなく審査する側の視点からの貴重なアドバイスもいただきました。1年後に迫った推薦入試やAO入試において役立つポイントをいくつも紹介していただき、受験の準備を進める上でとても参考になりました。

福高は、あなたの「みらい」を応援します！

生徒感想文 ～アンケートより～

キャリア教育講演を聞いて

2年 女子

今まで講演をたくさん聞いてきたが、その中でも今回の原先生の話はたくさん考えさせられた。捨てる教科を作らないということ、自分という人間を1分間語れるかどうかということ、価値観の違う人と付き合っていくことの大切さなど、一つ一つが内容の濃い話だった。



中には自分に当てはまっ
ていて耳が痛いような話もあり、焦った。

話を聞きながら自分について考えた。まず浮かんだことは頑張っている陸上競技のことと、教師になるという夢のこと。それについて語れと言われたらきっと語れるが、今の自分の状態だと口だけであるような気がした。実行に移せるように残された時間を無駄にしないようにしようと思った。

以前から私が教師を志す理由を考えていたが、今日少しわかった気がした。私が理想とする生き方が教師という仕事にあるのだと思えた。

感覚的だが、憧れの仕事に就きたいと思うのは当然のことだとすごく納得した。これからは、過去ではなくてこれから先のことを考えていきたい。

